

爪はとってもだいじなところ

by KARAAGE

いつも一緒にいてくれて、目立たないけれど、そばに居てくれないととっても困る存在。それが爪です。そんな爪を一度痛めてしまうと、常に酷使するため治癒しにくく、日常生活に支障をきたしてしまうことがあります。

でも、それは人間だけでなく、爪を持つ全ての動物に当てはまります。



ウシ



ブタ



ウマ

爪が重要な役割を果たす動物の中でも、特に有蹄類が蹄(ひづめ)を痛めることは命に関わる重要な問題となります。

有蹄類の四肢は、物をつかむなどの動きには不向きで、身体をしっかりと支えること、走ること等を得意とします。また、有蹄類の多くは、重たい体を立ったままの姿勢で維持することが多いため、蹄を痛めると悪化しやすく、治癒しにくい傾向があります。

馬の蹄は、1ヶ月に約10mm程度伸びますが、運動量が多いため爪の摩耗が速く護蹄が重要です。牛の蹄は、1ヶ月に約5mm程度伸びますが、運動量が少ないため、逆に伸びすぎが問題になる場合があります。

有蹄類の多くは家畜として飼育されるため、予後不良と判断された場合は、早期廃用・淘汰の対象となってしまう。また、野生の場合は走れなくなることで、たちまち外敵からねらわれる対象となってしまうのです。

有蹄類:主に、蹄と呼ばれる爪を有する、哺乳性の草食動物のことを総称します。中でも、爪の数によって偶蹄類 奇蹄類と分けられるものがあります。他にも近蹄類(象・ジュゴン等)やクジラ類など、四肢や蹄の無いものも存在します。

偶蹄類:ウシ・ブタ・ヤギ・ヒツジ・シカ・キリン・ラクダ・カバ等

奇蹄類:ウマ・サイ・バク)

では、人間の足の爪はどうでしょう。人間の足の爪は、1ヶ月に約2mm程度伸びると言われています。知らず知らずに、多くの人が「深爪」「きつい靴」「タンスの角にぶつける」などしていないでしょうか。顔や手に比べてあまり目につかないため、異常を見過ごしてしまい、違和感を覚えたときにはかなりヤバイ事になっている。なんていうことがよくあります。

かく言う私も、5年前に爪を強打して以来、親指のつめが大変なことになってしまいました。強打により内出血し、真っ黒になった爪がれず、2重爪(新旧の爪が融合)になってしまったことが始まりです。出血や化膿を繰り返し爪が変形。ついには痛みのあまり普通の靴がはけなくなるまでに…。さすがに[冬もサンダル履]ではあまりため、意を決して病院へ行くことにしました。

陥入爪と巻き爪

<p>陥入爪 かんに ゆうそう</p>	<p>爪の両端がトゲのように肉に刺さっている状態 (痛み・炎症・化膿を伴うことが多い)</p>	<p>原因 ・深爪・サイズの合わない靴・爪の打撲など</p>
<p>巻き爪 まきづ め</p>	<p>爪の両端が丸まり肉を挟み込んでいる状態 (無もある)</p>	<p>予防 ・深爪しない・足の甲を固定できる靴を履くなど</p>

痛～い



に肉が～!!



尖ってる!?



お尻!?



痛の～!!

結局、病院で陥入爪と巻き爪の合併症と診断され、すぐにワイヤーを用いた施術をしてもらいました。(症状等によって治療法は様々です)

痛くな～い

見た目的には直ったも同然！

痛みも消え、普通に靴がはけるように！

今は、早く病院へ行くべきであったと反省しきりです。

根治にはまだ暫く時間がかかり、再発の可能性も高い様なので、これからは十分注意して早めに適切な処置していくつもりです。

やっぱり爪は、とってもだいじなところ

あらためて、爪の大切さを思い知る良い機会となりました。

動物たちの爪だけでなく、自分の爪も大事にしなければ！です。

皆さんもご自分の「爪」お大事に。